

謹啓

立夏の候、貴殿におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。さて、この度、五月二十三日（日）に開催された「佐渡國鬼太鼓どっこむ」は、皆様のおかげをもちまして、盛大かつ無事に終了する事ができました。これもひとえに皆様方の御支援、御協力の賜物と感謝致しております。

今年の第十九回大会は、新型コロナウイルス感染症蔓延防止の観点から、やむなく中止としました。

今年も決して楽観視できる状況ではありませんでしたが、皆様よりの熱い期待と温かい応援を受け、スタッフの背中を押して頂きました。

また、新潟県、佐渡市からも、コロナ対策への補助と多大なるご協力を頂き、万全の態勢を整えた上で、お客様をお迎えすることができました。

今までとは違い、芸能は、メインとサブの二ステージのみで、どっこむの醍醐味である平場での披露ができず、観客との距離を詰めることはできませんでした。

物産は、テイクアウトのみの販売で、家族や仲間同士で飲食をしながら、ゆったりとイベントを楽しんで頂くという状況ではありませんでした。

そんな中でも、お客様は、ルールを守り、密になりすぎずに楽しんで頂きました。適度にお客様が移動し、中には、車に戻って食事をし、また、芸能を楽しんだ方も多くみられました。

当日の天候は、霧雨交じりの曇天でしたが、どっこむも、また、島内においても二年ぶりとなる大きなイベントが無事開催できたことは、ただただ皆様方のお陰と感謝の気持ちでいっぱいです。

二十周年を記念して行なわれた北越高校書道部の書道パフォーマンスの「想・魂・響」の文字は、「魂に響け」という熱い想いととも、芸能団体の皆様に大きな力を与え、佐渡の伝統芸能の奥深さを観客の皆様伝える事が出来たと思います。

今後は、今回の経験を足掛かりに、アフターコロナ・ウィズコロナの状況下でも、これまで培ってきた経験を生かして、地元の若い力を結集し、若者達が誇りを持って暮らせる佐渡ヶ島を目指し、この佐渡に一人でも多くの若者が増えていくよう取り組んでいく所存であります。そして、このイベントが観光の起爆剤として全国、全世界に発信され、今後のインバウンド、佐渡観光の発展に一役かえるよう、今後とも御支援、御協力をよろしくお願い申し上げます。

敬具

令和三年五月吉日

佐渡國鬼太鼓どっこむ実行委員会

会長 斎藤 勉